

資料 1

共同研究「短期大学における実技教育の目的と手法についての研究」概要（申請書より）

【研究目的】

本研究は、短期大学における実技教育の目的に応じた教育手法を工夫改善するための研究である。

個人レッスンを核とする音楽実技を中心に、2 年間という限定された短い期間で高等教育をおこなうには適切な指導が必要である。本学のような小規模校においては、教員の数も限定されるため、教員間の相互協力、それを促進するために必要な情報の共有が意識的に行われれば、それが教育に及ぼす効果は大であろう。情報を共有するにとどまらず、共有された情報から共通の問題意識が生まれ、改善のための共同の研究がおこなわれ、教育の現場で教員間の相互協力のもとに実行されて行く必要がある。

情報の共有、共同研究、教育現場での実行の三段階によるシステム作りを目指して、本研究は以下に記す計画に従って実施したい。

【研究期間】 平成 21 年 4 月～平成 23 年 3 月

【研究計画・研究方法】

○ 準備段階（本研究の開始に先だって実行される）

各教員が、自らの専門分野における教育経験の中から、困ったこと、うまくいったこと、今後実行したいことなどのレポートを書く。これらはレポート集としてまとめられる予定である。こうして情報を共有することは、各教員の問題意識、教育上の工夫の歴史などを共有することであり、これに続く本研究のための素地を固めることになる。

○ 1 年目：平成 21（2009）年度

準備段階で共有された情報をもとに、現在本学で取り組むべき教育課題は何であるかを討論し、優先課題を決める。決められた優先課題をめぐって各教員は、個人として、またグループとして、どのような工夫が考えられるか、教育法の改善に向けて努力する。その経験や個人的見解は、1 年目の終わりに個人レポートとして提出され、中間報告書としてまとめられる。

4～5 月 優先課題の決定、特別講師を囲む懇談会（1）

6 月～ 個人として教育法の改善へのアイデアを考える／実験する

2 月末日 上記の経験や個人的見解をレポートにして提出

3 月下旬 中間報告書作成

○ 2 年目：平成 22（2010）年度

1 年目に設定された優先課題をもとに、同じ分野の教員が数名ずつのグループを組んで共同研究を行う。1 年目の成果の中から、グループとして共通の問題として認識される事項について、各個人、またはグループ全体として、具体的な改善案・改善法を決める。グループとしての成果をレポートとして提出し、共同研究の報告書とする。

4～5 月 グループ分けと各グループの研究目標を設定する。報告書の執筆者を決定して、執筆者を中心に爾後の研究スケジュールを組み立てる、特別講師を囲む懇談会（2）

6 月～ グループとして教育法の改善へのアイデアを考える／実験する

2 月初旬～ 共同研究のまとめのための合同ディスカッション

2 月末日 グループとしての経験や見解をレポートにして提出

3 月下旬 報告書出版

【研究組織】短期大学部所属の専任教員全員 14 名

木村淳子 黒田 隆 小山久美 田邊克彦 山田日出雄 浅井洋子 臼井康雄
田野崎加代 増村修次 森 直紀 山館冬樹 鈴木ニ美枝 石綿絵美 酒巻和子（代表）